

# G-7 家庭科教育と家政学 (才/報) - 大学入学時における意識と実態を中心に -

中村学園短大 中村学園大 家政 松崎ナツ

**目的** 家政学系の大学や短期大学に入学し家政学を学ぶ学生について、小学校・中学校高等学校での家庭科教育の実態と、学生の意識を調査し、家庭科教育と家政学の関連について考え、学生指導の効果を高める資料を得ることを目的とする。

**方法** 昭和51年4月下旬、家政学系の大学に入学した学生(食物栄養学科・児童学科)217名と、短期大学に入学した学生(家政科)223名、合計440名を対象に、調査用紙を一斉に配布し、直接自記式記入により、即時回収した。

**結果** 高等学校の普通科卒83.6%、家政科7.5%、その他8.9%で、家庭科履修状況は家庭一般だけが66.3%、20単位以上が16.8%であった。被服製作については中学校のパジャマが94.8%で最高、ワンピース88.6%、高校ではスカートが77.5%でもっとも多い。調理実習状況や、被服・食物・保育・住居・家庭経営などの各領域で、もっと勉強したいと思った内容とその理由、省略してもよいと思ったこと、小・中・高の家庭科では学習しなかつたけれど、これからはぜひ必要と考える事項など、多方面にわたり把握することができた。家庭科を学習してよかったと答えたものは、359名で81.6%を認め、理由として被服製作や調理実習など、家庭で役に立つことと第一にあげている。家政学部を希望した理由として、大学では86.6%が資格がとれるから、短大では主婦になった時役に立つ、教養と身につけたいなどと答え、大学と短大では大きな差がある。大学・短大新入学生の家政学に対する考え方などについても述べたい。